

関係者各位

令和 6 年 7 月 1 8 日  
豊島区医師会  
会長 土屋淳郎

豊島区地域医療・介護ネットワーク構築事業に関する協力について

平素より当会各種事業にご協力いただき誠にありがとうございます。

平成 27 年から始まった「東京都在宅療養推進基盤整備事業(多職種ネットワーク構築事業)」は、ICT を利用した多職種連携ネットワークを構築し、地域包括ケアシステム構築の推進していく目的で開始されました。平成 30 年からは豊島区が引き継ぐ形で「豊島区地域医療・介護ネットワーク構築事業」を行い、現在まで継続しております。さらに令和 2 年には個人情報保護審議会での承認を受けて、行政や地域包括支援センターにおいても ICT を利用した多職種連携ネットワークに参加することが可能となりました。

これにより豊島区における ICT を利用した多職種連携ネットワークは広がり、これをベースとした地域包括ケアシステム構築も進んできております。しかしコロナ禍で多職種連携の会の開催が困難であったことに加え包括支援センターや介護事業所等の職員移動などもあり、一部では以前のような連携体制構築の推進が行いにくくなっている状況もあるようです。

そこで、以前の議事録に記載の内容に準じて、改めて豊島区地域医療・介護ネットワーク構築事業に関して下記のご協力をいただきたいと考えております。業務の増加傾向がある中でお手数をおかけしますが、医療と介護の連携そして地域包括ケアシステムの成熟には欠かすことができないと考えておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

記

以下の内容について、ご協力をお願いいたします。

- 1) 包括圏域ごとの多職種連携の会の開催、及びこれに関するコアメンバー会議への参加
- 2) 豊島区医師会多職種連携ネットワーク※への参加  
※豊島区医師会ではメディカルケアステーション(MCS)を用いたネットワークを構築しています
- 3) 豊島区地域医療・介護ネットワーク構築事業の実施にあたり地域包括支援センターの協力が必要な事項

以上

【参考】過去の会議録(抜粋)

①「平成27年度第2回地域包括支援センター運営協議会(平成28年3月25日)」より抜粋

医師会：「(東京都)在宅療養推進基盤整備事業(とは、中略)ICTつまりSNSを使った医療(介護)連携の構築(中略)、それと多職種の間が見える連携を今まで以上にしっかりと(行っていく)というものです。そこで、豊島区医師会は(対象の)圏域としましては中学校(区と言われる地域包括ケアシステムのサービス提供)の範囲であります、地域包括支援センターに(協力を)お願いをしようと(考えています。中略)皆さんのお仕事をふやしてしまっていて申しわけないのですが(中略)ご協力ください。」

②「平成30年度第1回地域包括支援センター運営協議会(平成30年7月26日)」より抜粋

包括：「(中略)多職種連携の会にしましても(中略)包括が主導になって通常の業務を圧迫しているという現状が出てきました」

医師会：「多分一番よい方法は、余裕をもって人員配置ができるよう(中略)区からの委託料の増額ということになると思います」「この多職種連携に関して(中略)負担が実際増えている(中略)なるべくコアメンバーをつくって、自主的にやるように、各地域で(中略)言っている」

包括：「コアメンバーの方たちが中心になり(中略)先生ともお話をしながら取り組んでいるのでとてもよくなってきています」

③「令和2年度第1回地域包括支援センター運営協議会(令和2年9月10日)」より抜粋

本区につきましても(中略)、本年7月の個人情報審議会にて承認を受けまして、このMCSに参加できることとなりました。(中略)

高齢者総合相談センターのMCS参加に(ついて、中略)個人情報の観点(中略)強化された専用のモバイルを活用して参加が承認された形になります。(中略)こちらに参加する区の組織と業務で、高齢者福祉課で認知症の初期集中業務、高齢者の相談業務、難病業務について、参加しようと思っております。あとは、保健所の健康推進課・長崎健康相談所が難病事業、高齢者総合相談センターの(主たる参加事業は)相談業務といった形になります。